

令和4年度（2022年度）第4回南大沢中学校区地域づくり推進会議議事概要

日 時	令和4年（2022年度）11月12日（土） 9：30～12：00
場 所	南大沢小学校2階 ランチルーム
出席者	参加者：柿島、木村、久保田、佐藤、高津、高橋、田中（茂）、廣瀬、廣田、福澤、宮武 高齢者あんしん相談センター南大沢：青山 はちまるサポート由木：関根 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：今居、上原 未来デザイン室：今川、野田、安齋 資産管理課：高田、橋本 （株）エックス都市研究所：松本、小市、田中
見学者	南大沢保育園保護者：加笠 多摩大学学生：佐藤
配布資料	第4回南大沢中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 活動紹介シート 資料2 アクションプランアイデアシート 資料3 取組意見ダイジェスト（南大沢中学校区） 資料4 八王子市の公共施設マネジメント 資料5 アクションプラン出来上がりイメージ例

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 議題

（1）情報提供「地域づくり推進計画の共通テーマについて」

資料をもとに、公共施設の活用・再編について事務局から説明を行った。説明及び質疑の内容は、以下のとおり。

（説明内容）

- ・全国各地で公共施設の老朽化による事故が起きている。公共施設は特定の時期（昭和49～58年）に集中して整備されており、今後老朽化への対応が必要である。一方で、市内の人口減少、高齢化の進行によって市の税収は減少する見込みである。これまでの水準で公共施設を維持するためには2046年度までに3,755億円が必要となる。また、平成25年度（2013年度）の1年間の施設維持費であった約93億円を基準としても、今後30年間で965億円が不足すると見込まれる。公共施設の維持、更新にかけられる市の財源には限りがあるため、公共施設による事故が発生しないよう、市は的確な予算対応をする必要がある。
- ・本市では、平成27年（2015年）に公共施設マネジメント基本方針を策定しており、市民と協働することで将来にわたって住みよいまちづくりを実現することを基本理念としている。この方針を推進するために、公共施設マネジメント推進計画を策定しており、3つの目標を掲げている。1つ目

は、人口に合わせた施設の適正配置。2つ目は、市民1人当たり2.03㎡の維持。3つ目は人口に合わせた施設総量の適正化である。特に3つ目は、公共施設を新たに作らずとも、人口減少により、市民1人当たり換算した施設の延床面積は増え、維持管理コストも増大することから、今後は施設総量を減らしていく必要があると考えている。

- ・公共施設マネジメント推進計画の目標を達成するための具体的な手法の1つ目としては、施設の長寿命化がある。市の施設の大半は鉄筋コンクリート造であるが、耐用年数が定められている。しかし、計画的な予防保全により耐用年数を延長することが出来、これによって新築や改築などの新しい建設コストを縮減しつつ、建設工事に伴うCO₂発生の抑制につなげていく。
- ・具体的な手法の2つ目として、施設の複合化がある。市内の学校で児童生徒数が減少し、空き教室が生じている。その教室を学童保育やその他の目的で有効活用し、周辺施設との複合化・集約化をすることで、施設総量の縮減を図っていく。
- ・具体的な手法の3つ目として、民間への委譲・民間施設の利用がある。公共施設を市で保有するだけではなく、民間や他の自治体と連携して、サービスを提供していく考え方を取り入れていく。
- ・公共施設マネジメントの取組に関する動画を市の公式 YouTube チャンネルで発信しているので、ぜひご覧いただきたい。

(質疑内容)

- ・スライド5の「公共施設の維持管理コスト」のグラフについて、横軸の1~30年という記載は何を表しているのか。
八王子市公共施設白書が策定された平成27年(2015年)を1年目として、30年後までの見通しを表している。(資産管理課)
- ・市民1人当たりが維持する床面積について、多摩地域の平均の話があったが、「多摩地域」とは23区外のことを指すのか。また、本市の市民1人当たりが維持する床面積は、多摩地域全体と同程度ということか。
26市を指している。本市の市民1人当たりが維持する床面積は、多摩26市と同程度である。
(資産管理課)
- ・スライド13の例示について、学校を50校減らせば良いということか。
学校を50校減らせば良いという意味ではなく、1人当たりが維持する床面積が約0.5㎡増えることをイメージしやすいよう、どの程度の規模なのかを身近な例として示している。
学校は昭和40~50年代辺りに当時の児童・生徒数をベースに集中的に施設を整備したが、現在の児童・生徒数は当時から約4割前後減少していたため、減少分の4割程度は余剰スペースとなっている。義務教育学校化も進めているが、今後建物の寿命によっては改築、老朽化していなければ中をスケルトン改修するなど、建物の構造を活用しつつ統合することもあるかもしれない。公共施設の余剰スペースに周辺の公共施設機能を入れ、公共施設の再編等も可能かと思うが、まだ可能性の段階であり、必要に応じて関係所管課と調整をしていく。(資産管理課)

(2) アクションプランを考えよう

会議資料をもとに、第3回南大沢中学校区地域づくり推進会議(以下「推進会議」という。)での議論を振り返り、第4回以降の取り組み方・役割について確認し、今回の進行役(ファシリテーター)及び板書係をグループごとに選出した。

	進行役(ファシリテーター)	板書係
Aグループ	宮武氏	福澤氏
Bグループ	高橋氏	久保田氏

続いて、参加者が参加している活動紹介を行い、アクションプランについて意見交換を行った。活動紹介の概要と、主な意見は以下のとおり。

1) Aグループ

活動紹介について

- ・このグループには、3つの小中学校それぞれの学校運営協議会に所属される方が3人、防災関連の活動をされる方が2人、青少年対策地区委員会に所属される方が2人、外国人支援をする八王子国際協会に所属される方、そして多摩大学学生が参加している。
- ・多摩大学では経営情報学部事業構想学科に所属し、起業を目的とした勉強をしている。
- ・高齢者対象のふれあいきいきサロンの運営をしており、南大沢3丁目、4丁目、ニュータウンの各所で活動している。また、子ども食堂での活動や、珈琲講座を通じてできた繋がりで交流カフェ Aeru De Café の運営に携わっている。長池公園、大塚西公園などの子ども向けイベント開催時に出店し、親世代にくつろいでもらう取組をしている。子ども食堂に関しては、コロナ過ということもあり、食材を配布している。
- ・南大沢連絡協議会(以下「連絡協議会」という。)では、大平公園夏祭りを開催している。元々は子どものために開催したのだが、盆踊りは高齢者の地域参加の場にもなっていた。しかし、資金不足のため、やぐらを建てず、飲食物の提供もなくし、17時で終了となりつつある。関わる人を増やし、地域の新しい祭りとして再構築できると良い。ただし、連絡協議会が主体ということは変えずに続けたい。

やぐらの設置には多額の費用がかかるため、その分を子どもに還元した方が良いのではという意見を聞いた。やぐらに代わるものを設置するなどして、盆踊りを開催しても良いと思っている。運営に携わっている青少対として考える理想のプランは、どんなものが。

地域全体の祭りに切り替われば良いと思う。

主体は、連絡協議会のまま変わらないのか。

主体という形にしておかないと資金面で困ると思う。最近の若者はLINEで連絡を取り合っていて、中学校卒業後も中学校時代のLINEグループで繋がりが、そこで地元の夏祭り情報等を入手しているらしい。このような繋がりを活かすには、SNSの活用が不可欠だが連絡協議会にはオペレーターとなれる人材がいらない。まずは大学と連携することで学生に参加してもらい、SNSを活用できる仕組みを整えてもらえると良い。

連絡協議会も高齢化が進んでおり、管理組合の理事会の中で催し物の担当になるのを皆が嫌が

る。大変というイメージを払拭できる何かがあると良い。一つの目標で地域全体がまとまるのは、大事なことだと思う。

- ・ 防災関連の活動を始めて4年になるが、それまでは応急危険度判定などをやっていた。
- ・ 多文化共生や国際理解、日本語教育に関わっている。

アクションプランについて

- ・ 南大沢に対する評判を調べてきた。長所は、駅前に商業施設が立ち並び買物しやすく便利、医療施設が充実している、防災等の安全度が非常に高い、歩車分離がされていて安心して生活できる場所である。短所は、都心から遠く、坂道が多いこと、またバスの本数が少ない地域があることや、夜は静かで帰り道が寂しいこと、南大沢駅周辺から離れると田舎風景になることなどが挙がっていた。

- ・ 全員で取り組んだ方が良く、またアクションプランに入れた方が良くと思うものはあるのか。

地域施設の再編成は大きなテーマになる。

時代に合わせてこれから必要なものとそうでないものに分ける必要がある。

- ・ 八王子には多文化共生センターがない。日本語教育・国際交流・外国人サポートの拠点が欲しい。子ども食堂にも外国人が来ている。

- ・ 祭りを理想的な形にするためにどうしたら良いか。

南大沢フェスを開催し、実行委員会を立ち上げ、連絡協議会のほか、有志を募り、学生や南大沢3丁目商店街などに入ってもらってはどうか。南大沢フェスは、伝統体験や物品販売、発表、防災など多面的にできるイベントにしたい。

今まで連絡協議会に負担が集中していたが、高齢化も進んでいるため、人材面をどうにかしたい。スポンサーを探したり、クラウドファンディングをしたり、新しいことを取り入れて再構築してはどうか。老人会による野菜の販売や、昔のおもちゃ体験も考えられる。

中学生に実行委員会に入ってもらうのも良いかもしれない。小学校で子ども祭りなどを実施しているため、自分たちで企画・運営をする力を持っている。

中学生くらいになると自身が遊ぶ楽しみよりも、自分より小さな子どもを遊ばせる喜びの方が強い。

子どもで屋台食堂を出店してみたり、外国人の方には郷土料理を振舞ってもらったりしてはどうか。伝統を学ぶことも大事であるため、子ども神輿はこの日に開催してはどうか。そのほか、アートワークショップや防災関連で起震車やAEDなどの体験も考えられる。

- ・ 南大沢駅の北と南で地域が分かれていることが課題である。

こだわると進まない。連絡協議会や南大沢町会などの様々な団体を一括りにし、大きな町内会を作っても良いのではないか。人口減少し、高齢化も進んでいるため、それくらい大きなエリアで捉えていかないと、それぞれの団体の未来がないのではないか。

地域の中で今の枠組みを超えた大きな集まりがあっても良いのではないか。

- ・ 大学連携について、学生目線で何かないか。

地域活動をする事で単位をもらえるのは良い。

フィールドワークで利用するのはどうか。

良いと思う。その過程で夏祭りのことも学生に周知し、ボランティアを募ってはどうか。多摩大学からは、車で30分程度かかるため、交通費やお昼などの補助があると学生としては良い。

学生ボランティアに対して地域ポイントを付与して、貯まったポイントが商店街で使えるのは

どうか。

先ほど話に出ていた南大沢全体での取組にしないと、ポイントが使える場所が限られてしまって魅力がなくなる。

- ・ 多文化共生に関しては、何かアドバイスはないか。

大平公園辺りでインターナショナルフェスティバルを開催し、民族芸能を披露するイベントがあっても良いのではないか。

- ・ まとめると大きな柱は、学校連携、祭り、インターナショナルの3つである。

一括して情報収集できる場所が欲しいのと、子どもから高齢者まで楽しめるスペースがあっても良いと思う。

祭りを開催するにあたって、交通整理やごみ処理をどうするかは考える必要がある。

大学にボランティアセンターがあるのだが、住民からすると活用方法が分からないため、市が主体となって大学と地域のマッチングの場を設けてほしい。

2) Bグループ 主な意見内容

活動紹介について

- ・ 社会福祉士の活動としては、引きこもりの方や社会に生きづらさを感じている方の自宅訪問などを行っている。また、今年度から「ぼまるのおうち」という任意団体を立ち上げ、長池公園や小山内裏公園で演劇、ダンス、美術等のアーティストを連れてきて親子向けワークショップを実施している。困っていることは、資金面、活動場所、人材面である。現在は、子どもゆめ基金の助成を受けて活動しているが、この先どうやって続けていくか手探り状態である。企画やアイデアは浮かぶものの、活動場所の交渉でつまづくことがある。マンパワーも足りていない。続けていく中で参加者や協力者の輪は、広がっていると感じる。
- ・ 民生・児童委員の活動として、バザーや南大沢文化会館での一人暮らし高齢者向けの交流会等の開催に携わっていたが、現在はコロナ過で実施できていない。また、南大沢小学校の学校運営協議会に入っており、学校の田んぼ（種もみ～田植え～稲刈り～脱穀）や畑の手入れ等を手伝っている。学校でも人材不足であり、田んぼの手入れ等まで手が回らない状況であるが、子どもたちにとって農作業体験は大事な経験と考えるため、続けていきたい。
- ・ 八王子市高齢者いきいき課に登録し、訪問・移動支援やサロン活動を行っている。また、八王子市こどものしあわせ課に登録し、八王子食堂ネットワーク「八王子未来応援団」で子ども食堂、フードパントリーの運営を行っている。国のフードバンク登録団体として、企業の余剰食品や災害用備蓄食品の入れ替え等を行っている。主な活動エリアは南大沢だが、八王子市に限らず活動している。活動分野は地域コミュニティ、高齢者、子ども、まちづくり、生活、貧困対策としている。困りごととしては、食品ロス法が施行されてから、企業から膨大な量の食品の引き取り相談があり、さばききれない。上手くいっていることは、継続的に支援ができてきていることである。
- ・ 子どもたちと工作づくりを行う活動をしている。コーシャハイム南大沢の居住者は、無料で集会所が借りられるため、そこで活動している。
- ・ 南大沢町会長（1丁目、2丁目）を務めており、地域の問題などを、市や地元企業と話し合い解決していくのが主な活動である。一番困っていることは、町会加入世帯が減少していることである。この対応策として、推進会議参加者を含めた町会の10名ほどでDX部会を立ち上げ、回覧等の情報

を LINE 等で回していこうとしており、南大沢 1 丁目、2 丁目に住んでいなくても入会できるようにしている。また、町会が町会賛助会員となっている地元企業や商店の情報発信を LINE 等で発信し、その代わりに町会加入者限定価格で商品を販売してもらえないか交渉をしている。

- ・ 子どもをテーマに活動している。南大沢小学校の学校運営協議会に所属するほか、放課後こども教室や金曜夕方の中高生の居場所づくりに関する活動も行っており、子どもを通じてつながるような活動を行っている。中高生の居場所づくりに関しては、資金がないのが困りごとであるため、他地区と同様に中高生に関しても市から予算が出るように働きかけたい。また、南大沢中学校区において、他の推進会議参加者と一緒に自主防災活動も行っている。加えてフードバンクや、放課後こども教室の取組にも参加している。「未来 = 子ども」だと思っているため、自然の中で子どもを育ていきたいと考える。

アクションプランについて

- ・ 南大沢に財産として残るイベントを考えた。6 つ提案する。

道の絵、街の絵

地域内に地域住民で一つの絵を描くイベントである。遊歩道に色を塗ったり、絵を描いたりできると良い。色を塗るのは子どもから高齢者までができることだと思う。

南大沢森のスタンプラリー

南大沢全体を森に見立て、単なるスタンプラリーではなく、プロの演劇の方などに参加してもらい、物語調で子どもたちが地域を巡れるようにする。例えば、110 番こどもの家になっている家にはどんな大人が住まわれているかわからないため、スタンプラリーのポイントに設定し、子どもたちとの接点ができれば良い。

子どもが撮る南大沢の人

南大沢出身の映画監督である東かほりさんと連携して、子どもたちが南大沢の大人たちを撮影する映画を作り、南大沢の映画館で上映できると良い。

南大沢体操、南大沢音頭

アーティストに参加してもらい、体操や音頭の作詞・作曲からしていく取組ができると良い。

手作りハロウィンパレード

既存のパレードは、子連れでないでないと参加しづらいため、大人も楽しめる企画にしたい。例えば、仮装ブースを設置し、そこに布や画材を設置してその場で仮装ができるようにする。

こども村

校庭の一角をこどもの自治区にし、設置したい遊具の企画から作成までを大人の手を借りながら作り上げていく。

- ・ 子ども中心の取組についてアイデアが出てきたが、DX 化にもつなげていきたい。
- ・ 情報集約や情報発信の部分で何かアクションがあると良いと思う。活動を行うにも費用の問題があるため、拠点となる場所づくりなどの課題がある。
- ・ 拠点については、学校の統廃合があるのならば、空いた学校を活用したい。民間が提供する場を活用するとなると、家賃等の問題がある。

コーシャハイム南大沢の集会所を活用することできるのではないかな。

- ・ 多世代・多様な人が集まることが難しいと思う。多世代が集まれる居場所がどこかにあるか。南大

沢1丁目、2丁目は、範囲が広いと、どこに拠点を設けるかが難しい。

居場所は、住んでいる場所の近くにないと集まりづらい。

地区内に複数の拠点があると良いのではないかな。

- ・ 町会の情報発信についてだが、町会費を払うというコストに見合ったメリットがあれば、加入者は増えると思う。
- ・ つながりはどうしたら増えていくと思うか。(PAL-ETTE)
地道にイベントなどを通じて、つながりを作っていくことではないか。特にアートは効果的だと思う。

3) まとめ

AグループとBグループで検討した内容を発表。両グループの発表のまとめは以下のとおり。

- ・ 両グループともにアクションプランの柱を出してもらえた。
- ・ つながるための仕掛け作りとして、祭り・イベントを開催することが大事であるとする点は、両グループで共通しているが、人材面や資金面に課題がある。人材面は大学との連携や地域で協力して運営していくことが意見と出されていた。また、資金面では、クラウドファンディングを活用したり、イベントの開催場所は今ある資源を活用するという意見がでていた。(エクス都市研究所)

(3) 次回の検討に向けて

第5回推進会議の進め方、自主活動の実施希望について確認をした。質疑の内容は、以下のとおり。

- ・ 本日の会議で柱が出たため、次回以降、具体的に内容を固める作業をしていく。その作業をしていく中で、2グループで似たような内容があれば集約したり、もっと内容を発展させたりということは出てくるかと思う。第5回推進会議の事前ワークをする中で、本日出してもらった柱の内容に改善点があれば意見を出していただきたい。(エクス都市研究所)
- ・ 考えてもらったアクションは、具体的に誰がどうやっていくのか決めていくことになる。参加者の皆さんで実行していくアクションプランになるため、資料5と同じフォーマットにするかどうかは、皆さん自身で考えてもらいたい。(エクス都市研究所)
- ・ 第5回推進会議で、本日出た柱を基に具体的な内容を固めていく作業となるが、どこかへ話を聞きに行くなど情報収集が必要であれば、次回までに自主活動をしていただき、アクションプランをより良くするための材料作りもしてほしい。(エクス都市研究所)

事前ワークでは、しっかりと検討したいため、資料は早く送ってほしい。また、検討を急ぎすぎているように感じるため、時間をかけて検討すべきところは、時間をかけるべきではないか。

資料は、なるべく早く送るようにしたい。また、本日の推進会議は議論で終わる想定でいたが、柱までだしてもらったため、今回は具体的な内容についてじっくり議論してもらえればと思う。

(エクス都市研究所)

せっかく場が温まっているため、あまり期間をあけない方がよい。せめて、前回、どんな議論がなされたか、5分程度時間をとって振り返りをした方がよいのではないかな。

両チームとも、祭り・イベントを実施する方向になっているため、柱を絞り込み各自で具体的な検討をして、次回の指針会議で意見を持ち寄った方が良いのではないかと。

じっくり検討したいというご意見もあったことから、本日の記録を見ていただき、事前ワークで各自検討してもらい、次回の推進会議でより良い形にしてほしい。(エクス都市研究所)

- ・ヒアリング先は、事務局から提案していただいた方が、動きやすい。

両チームで各々3つの柱が出ており、現段階ではアイデアベースの柱であるため、もう少し具体的な議論をしてもらい、その上で誰に何を聞くのかを落ち着いて考えてから、ヒアリングをするか決めるのもよいのではないかと。(未来デザイン室)

大学、町会や連合会の話が出たため、次回、推進会議に来てもらえないだろうか。

来てもらう方に何を聞くのか明確になれば、呼びかけできるのではないかと。(未来デザイン室)

商店街や大学等をお願いしたい役割が決まってから、お声がけしても良いのではないかと。(エクス都市研究所)

来てもらって一緒に考えてもらった方が良いのではないかと。

事前ワークで改めて何をだれに聞きたいか考えてもらい、ヒアリング等が必要であれば、申し出てもらえればと思う。(エクス都市研究所)

3 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・2018年から稲本正氏を中心に「清水入り緑地の里山的整備」プロジェクトを実施している。前回、推進会議参加者の3人で竹ベンチ設置のイベントに参加し、地域の子どもたちにも参加してほしいという思いから、稲本先生が地域に配布できるチラシを作成してくれた。将来的には、地域の子どもたちが育てているどんぐりの苗の植樹などに関わっていきたい。来週、竹ベンチの設置イベントがあるため、興味がある方は参加してほしい。
- ・ぼまるのおうちでは、日常の中に作る・歌う・踊る・演じるなどのアートが溶け込み、アートを中心としたフラットな関係性が紡げればという思いで活動している。11月26日(土)に「ひとみずとつちであそぼう!」というワークショップを開催する。一本杉公園から徒歩20分位のところに個人所有の田んぼがあり、そこを借りて田んぼの土で泥人形を作って焼くなど、普段、体験できない体験を親子でしようという企画である。12月10日(土)は、プロの演劇・音楽家ユニット「えぼんず」を長池公園に招き、長池公園全体を舞台に見立てて、子どもたちが舞台の主人公になるような演劇の開催を検討中である。チラシの配架にご協力いただける方がいたらぜひお願いしたい。
- ・「kokohana やさしい日本語でつながる八王子の会」では、多文化理解のワークショップを開催しており、今回は「第三者返答」について考える会を開催する。「第三者返答」とは、例えば日本語を話すことができる外国人がレストランなどを訪れた際、店員は同行の日本人に話しかけたり、視覚障がい者でコミュニケーションに問題ないにも関わらず、同行者に話しかけたりといったことである。偏見や思い込みで差別を受けている方がおり、マイノリティの意見も聞きながら、その意見をどのようにまちづくりに活かすか話し合いをする。福祉や多文化共生に興味のある方にぜひ参加してもらいたい。
- ・明日見らいふの施設担当者との情報交換をする機会があり、明日見らいふ側も地域連携や交流の機会を考えたいと伺った。コーシャハイム南大沢の集会所では、利用者の中に居住者がいる場合は集会

所を無料で使用できるルールになっている。東京都住宅供給公社としても、昨年度からコミュニティづくりの専門職員を配置し、地域コミュニティづくりのイベントを企画しており、コミュニティづくりにフォーカスした取組を始めているようである。(高齢者あんしん相談センター南大沢)

4 閉会

次回の地域づくり推進会議の日程等を確認した。

- ・ 第3回推進会議の議事概要(案)の修正があれば、12月2日(金)までに未来デザイン室に申し出てほしい。(未来デザイン室)
- ・ 第5回推進会議は、令和5年(2023年)1月21日(土)9:30~12:00 南大沢中学校 3階家庭科室で実施する。(未来デザイン室)
- ・ 活動紹介シートは、次回の推進会議の資料とあわせて共有するため、提出してほしい。後日、提出したい場合は、市から提供する封筒で郵送してほしい。

以上

所属団体

・いきいきふれあい
サロン
・どんぐりサロン
・よい子食堂
・Aeru De Cafe

・学校運営協議会
・交際協会
・日本語教室

青少年地区
委員会

・南大沢中学校コー
ディネーター、サポ
ーター
・学校運営協議会
・防災

多摩大学
経営情報学部
事業構想学科

・南大沢中学校運
営協議会
・危険度判定学

活動エリア

市全体

ニュータウン
エリア

活動の情報発信方法

LINE でつな
がる卒業生を
通じてつながり
活動

大学生が
若者のつな
がりを支援

活動分野

・防災
・中学生支援
・学校と地域を
学ぶ

イラストレーター

土木・治水の
エキスパート

・東京都応急危
険度判定員
・災害時の消防
指揮

高齢者の
つながりづくり

活動内容

・コーヒーを通
じたふれあい
(あえるでカフ
ェ)
・長池公園でイ
ベント等

広いエリアで
高齢者、学生
がコーヒーで
つながる

コーヒーを通じ
た高齢者支援

・どんぐりサロ
ン
・南大沢中学
校区盆踊り

・盆踊り
・講習会
・高齢者の地
域参加

祭りを通じて
高齢者の
つながり作り

子ども食堂
手伝い
食材配布
バーベキュー

全世代で
つながる活動

大平公園
やぐらのなし
17時には終了
出店なし

連絡協議会が
負(100万円)

・子どもの居場
所
・食の支援

高齢者の参加
だけでなく
再構築?

やぐら代の
節約

活動でうまくいっていること、困っていること

全体として
つながりづくり
連絡協議会
全年代

全世代を
どうつなげて
いくか

連合協議会の
高齢化

地域の大学生
巻き込み

担い手の
不安

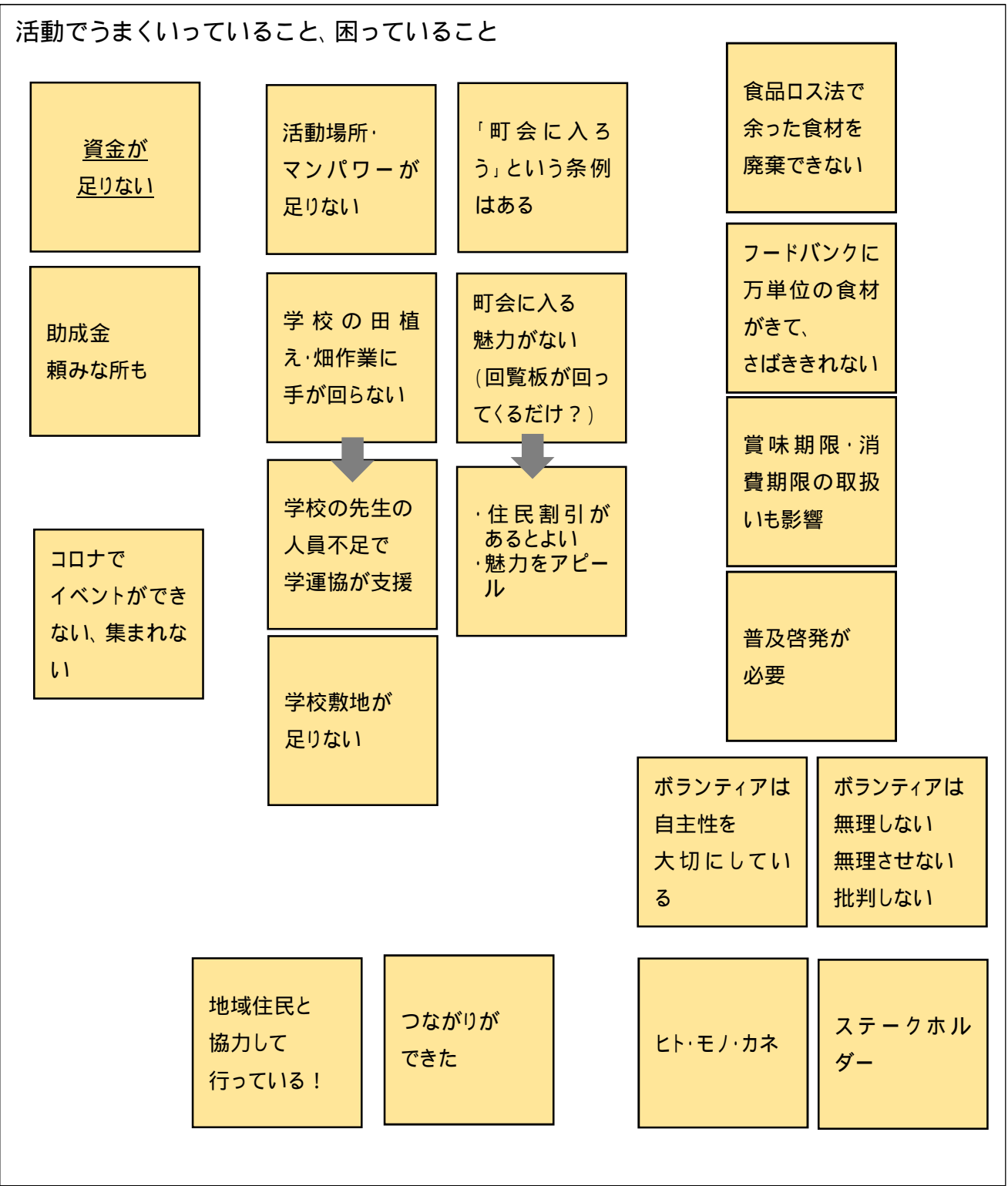
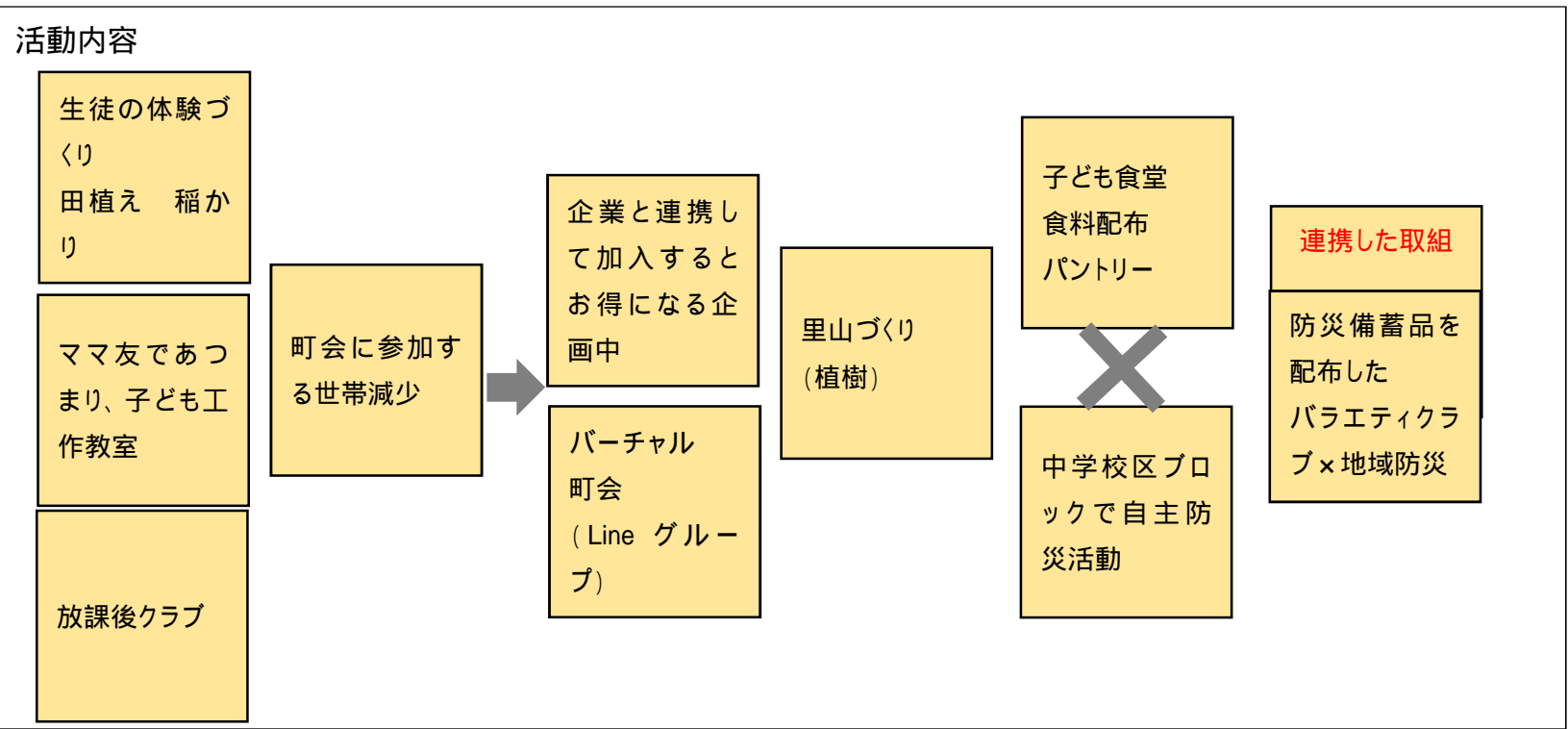
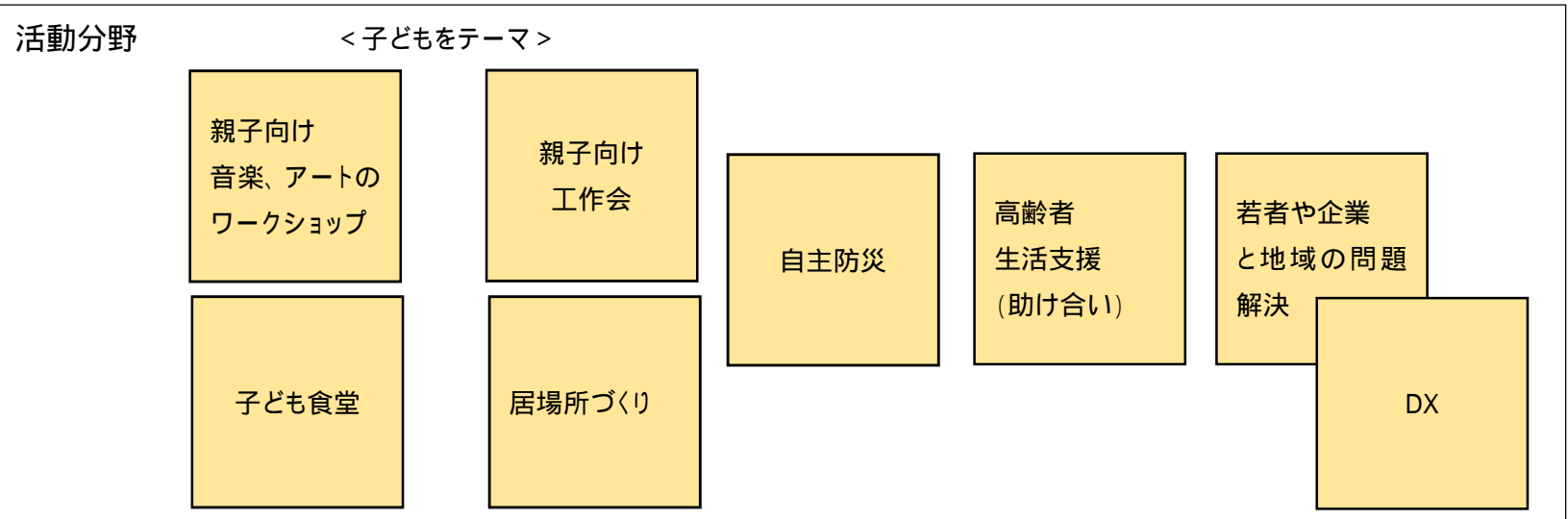
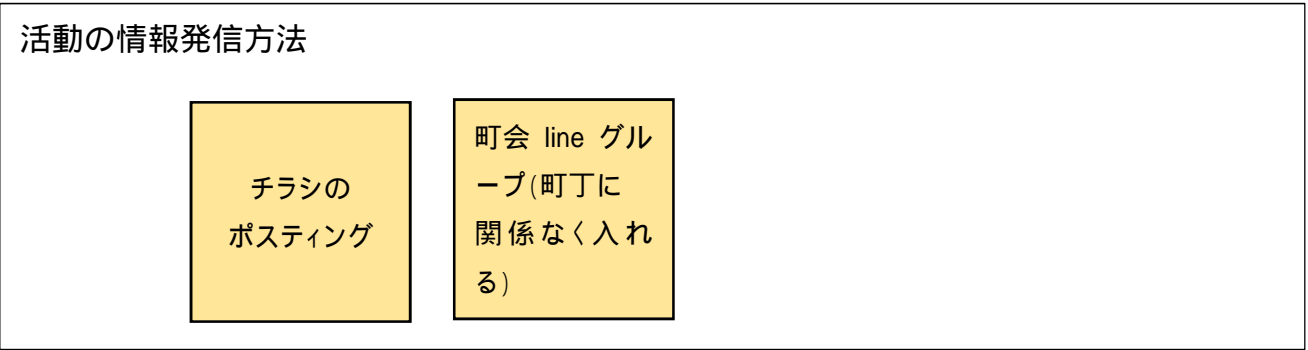
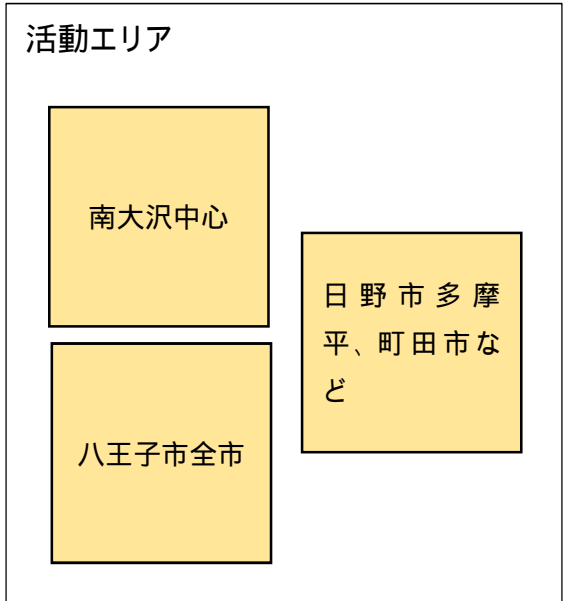
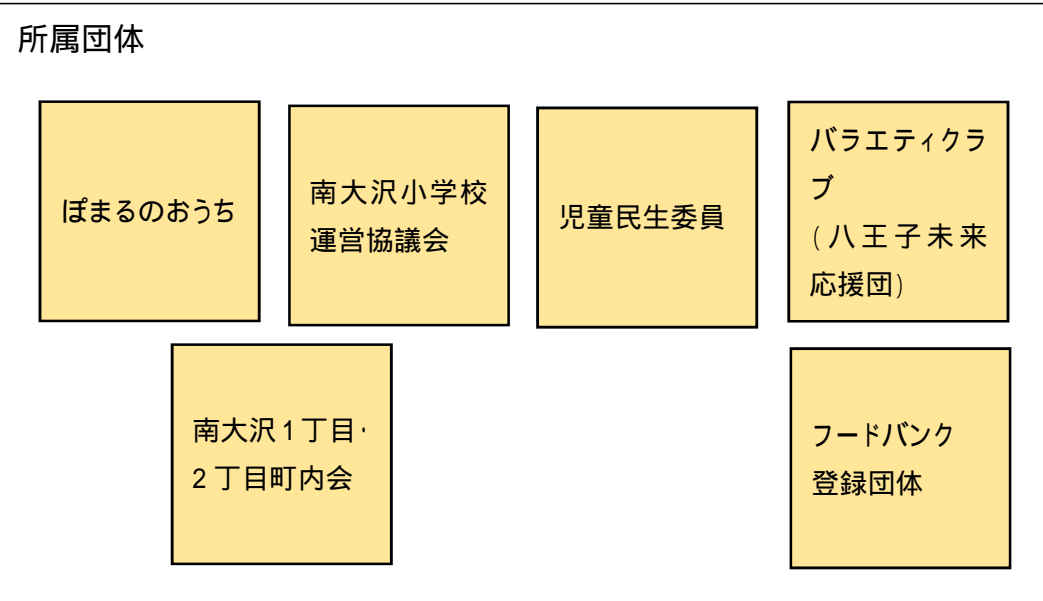
大学生と
地域が
つながる場

多文化共生
センターがない

商業施設
医療機関が
充実している

コミュニティ FM
大学生

南大沢で
起業の
フォロー



将来ビジョン<第3回推進会議 仮置き案>

- 幅広い交流
 - ・年代
 - ・文化
- 幸福度の高い街
 - アットホーム
 - マイタウン

認め合うやさしい街 アットホームマイタウン

キーワード：“だれもが” = 多世代、多様な人/つながる手法/すでにある活動をつなげる/未来につなげる、継承

アクションプランのアイデア：将来ビジョンを実現するための取組をイメージしてみる

<p>取組テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の祭り 大平公園 中郷公園 インターナショナルフェス 	<p>取組テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学連携 	<p>取組テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生センター 日本語国際交流
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 花火 体験 子どもみこし ぼあそび ポッチャアート ・防災コーナー ・消防団パフォーマンス ・AED ・防災食配布 ・発表 ・空手 ・おはやし ・七頭まい ・ダンス 南大沢フェス! ・老人会の野菜販売 ・ハンドメイド 地域商店 出店 外国人の料理をふるまう ・祭りのゴミ ・車の誘導 <p>‘南大沢’は広範囲(中学校区とは別)</p>	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの場 他大学をつなぐ 仕組みづくり 市と大学で マッチング会 	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流支援 外国人サポート ボランティアとりまとめ 国際交流支援 日本語教育 外国人生活サポート 外国人市民の居場所 市民との協働の場 現状環境の保全が課題 (滝、風力発電)
<p>手段・手法</p> <ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディング スポンサー探し 大学との連携 地域クーポン 連合会の負担の分散 	<p>手段・手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と住人をつなぐ、マッチング会を市が主催 <年代別組織> 青年団 少年団 婦人会 <大学生のメリット> <ul style="list-style-type: none"> 地域ポイントの付与 ボランティア活動証明書 学生支援 交通費 お昼 卒業認定単位 	<p>手段・手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設を再利用できないか? 地域の外国人(40人、20か国) 人材バンク 子ども・若い世代を持ち込む 活動拠点づくり 居場所
<p>共通課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域施設の再編成 ・生涯学習センター 使いにくい ・部屋の予約 ・印刷 		

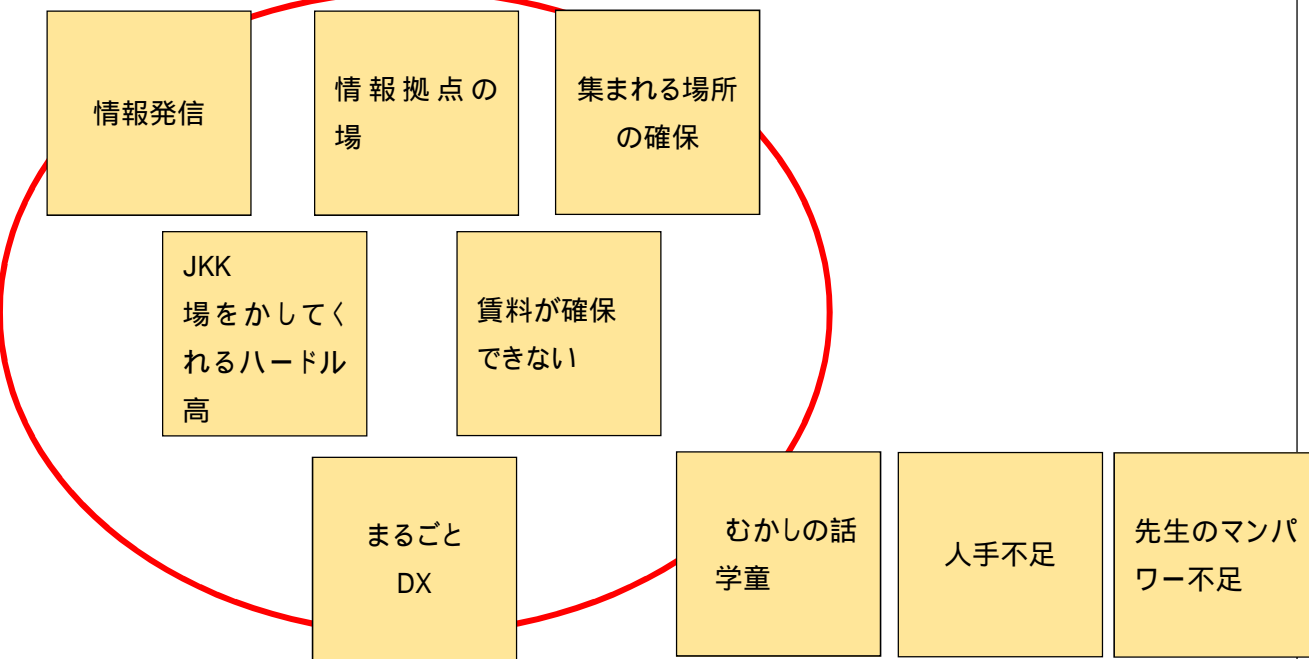
将来ビジョン<第3回推進会議 仮置き案>

認め合うやさしい街 アットホームマイタウン

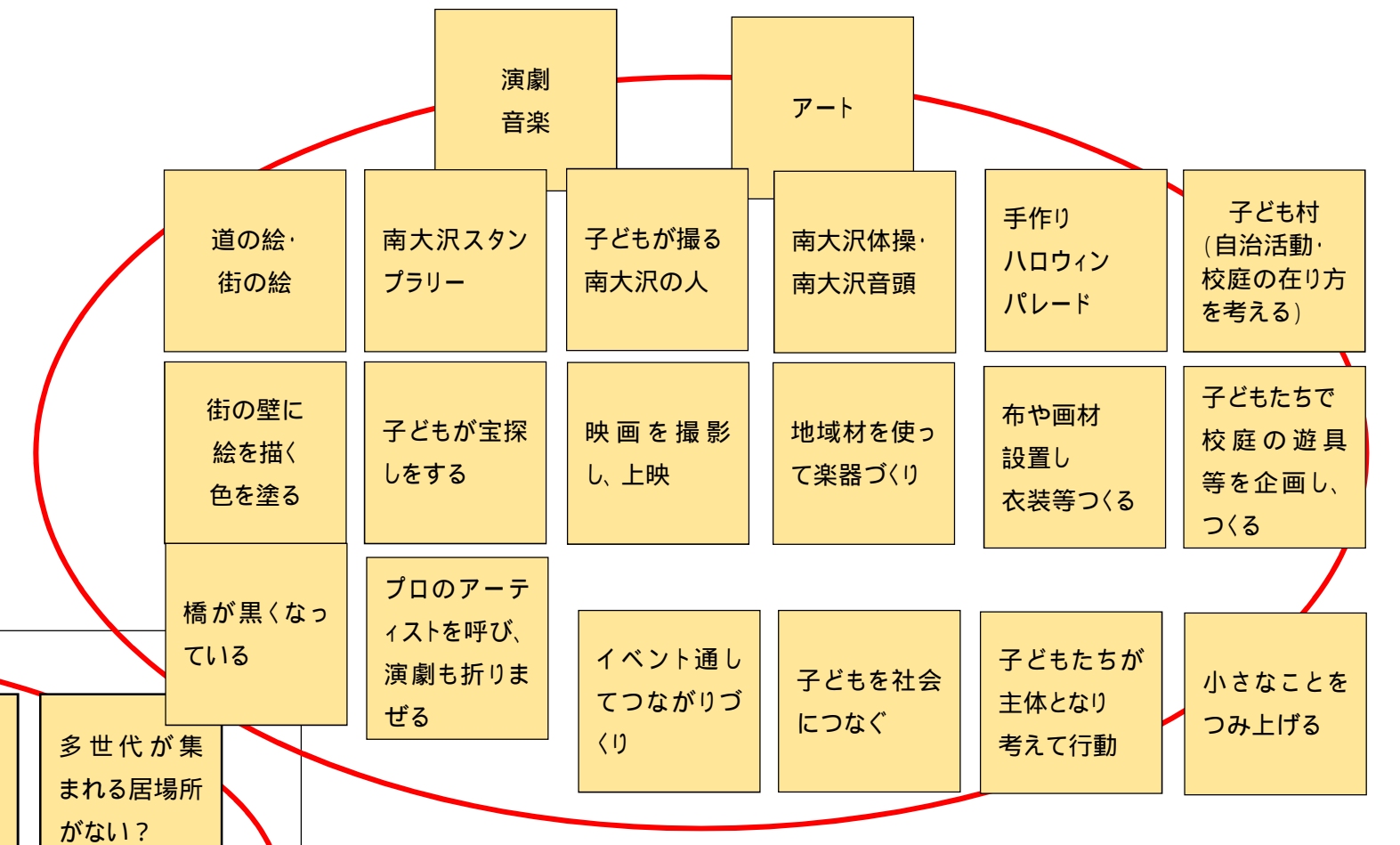
キーワード：“だれもが” = 多世代、多様な人/つながる手法/すでにある活動をつなげる/未来につなげる、継承

アクションプランのアイデア：将来ビジョンを実現するための取組をイメージしてみる

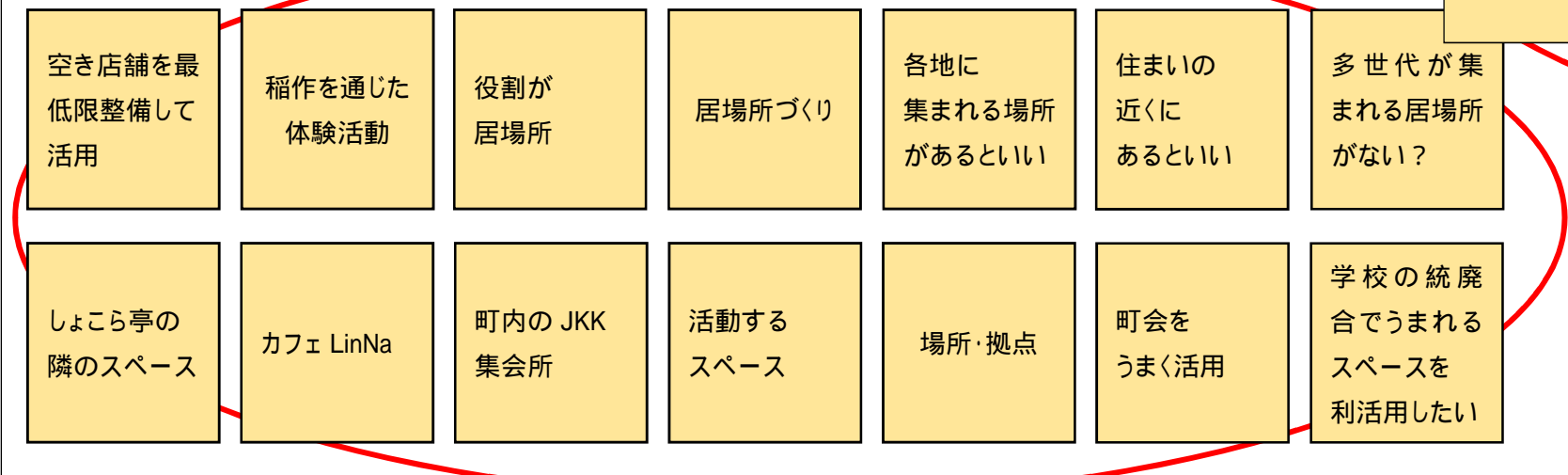
DX パーチャル



イベントの仕掛け アート つながりのきっかけづくり 財産として残るものを！



居場所づくり リアル



アクションプランの柱

A グループ

お祭

運営体制(ライン等)

資金確保(クラウドファンディング)

多文化共生

外国人も含め

交流場所の確保(地域資源活用)

大学との連携

つながるプラットフォーム

互いにメリットを...

研究フィード

B グループ

イベントを仕掛ける

アートでつなぐ

未来の人材育成

(子供発信、大人サポート)

つながりの拠点の確保

バーチャル町会(加入のメリットを)

リアル:既存の集会所

学校の活用

運営資金の確保

世代間連携

その他

・市から情報提供してほしい

南大沢中学校に関する新しい情報がある場合

・大学、町会、商店街の参加

お祭りで連合会をつくることもできるのでは。
今後お願いしたい役割が出てきたら声を掛ける

・進め方のリクエストがある場合は、市へお申し出を

・相談機関から現状の取組情報を提供してほしい

・考える時間を十分に確保してほしい

・前回の議論の確認する時間を設けてほしい